



# TOHOKU EPO通信 vol. 13

[エポ]  
東北環境パートナーシップオフィス



「ハートのひまわり」復興への希望が感じられます。【写真提供：ふくしまシード】

## Contents ❖

### ❖ 環境復興再生プロジェクト

- 「一本松プロジェクト」
- 「防風林再生プロジェクト」
- 「東北コットンプロジェクト」
- 「東日本大震災後 EPO 東北の動き」

### ❖ 復興支援 recycle goods

### ❖ 東北6県EPOトピックス

#### 東北環境パートナーシップオフィスとは

東北環境パートナーシップオフィス（略称：EPO東北）は、東北地域の環境活動を促進するために、人と人をつなぐ拠点となることを目的としています。さまざまな分野の人や組織が垣根を越えて協働できるよう、地域の環境情報の発信と交流機会の提供を行い、活動の広がりや新たな取り組み創出のきっかけ作りを担います。たくさんの方がEPO東北をきっかけに出会い、新たな環境活動の環が広がるよう、皆さんのパートナーシップ作りを支援します。

# 環境復興再生 PROJECT

3月11日に発生した東日本大震災により、東北地方では大きな被害を受けました。

特に大津波に襲われた太平洋沿岸はその景観を大きく変えました。海岸の松林はことごとくなぎ倒され、田んぼは海水による塩害で作付けができなくなりました。

「何かしなければ」という多くの思いから新たなプロジェクトが生まれ、各地で環境復興再生に向けた活動が進められています。今号ではその中のいくつかをご紹介します。

## 「一本松プロジェクト」

<http://www.ipponmatsu-pro.com/>

支援していただいた全国の皆さんに、感謝の気持ちと私たちの呼吸を感じ取ってほしい。一人では小さな力でも、それぞれの個性や長年の経験を生かして出来る事はないか。今、私たちの生きがいになることはないか。故郷や美しい高田松原の再生を私たちでも何かできることはないか。そんな思いから、このプロジェクトが始まりました。

私達は、陸前高田を愛する市民の集まりです。

そして、3月11日から家族になり、同じ避難所で互いを思いやり、助け合いながら苦しみや悲しみを共に乗り越えた仲間です。

震災によって失ったものは大きかったのは事実ですが、震災を通じてたくさんの出会いがあり、たくさんの大切なことに気づくことが出来ました。



仮設住宅で仲良く製作中細かい作業は手作業です。

私達がお世話になった避難所も震災から四ヶ月後に閉鎖になりましたが、今では仮設住宅に皆入り避難所で出会った家族と共に、この一本松商品を制作するのが楽しい日々になっています。

ただ自分達の街のためではなく…皆の深い絆がこのプロジェクトを動かし、そして笑い声の尽きないそんな大切な場になった気がします。



幻の松りんは全て一個一個手作り!! 表情が違ってくるのも楽しくなります



よみがえれ「クロマツ」よみがえれ「ふるさと」

## 山形県新庄発「防風林再生プロジェクト」推進中

団体名/松ノ木支援実行委員会 代表者/堀江敏幸(新庄郵便局長) 事務所/山形県新庄市沖の町2-28第一ビル1F  
電話/0233-23-0393 (FAX兼用) URL/ <http://www.city.shinjo.yamagata.jp/7106.html>

津波により東日本太平洋沿岸部の防風林が壊滅的な打撃を受けました。

山形県新庄市内の仕出し業者が震災翌日の3月12日から毎日無報酬で仙台市の若林区を中心に弁当を届け続けていました。その活動を知った新庄市も途中から一緒に取り組みました。

その活動中に多くの被災者から聞いた「防風林がなくなってさびしい。」という声プロジェクトを始めるきっかけです。防風林の再生に少しでもお手伝いできないか、市内の仲間に話したところ、たくさんの企業、個人が賛同。クロマツなどの防風林苗木を山形県内の里山や砂地で2~3年育てた後、国や県の計画に沿って仙台市若林区の沿岸部などに植樹しようという「防風林再生プロジェクト」が生まれました。

ことし6月に事務所を設置し、実行委員会を立ち上げました。会長には仙台市若林区出身で実家は津波で流された新庄郵便局長が就き、2千万円の協賛を目標とした取り組みがスタートしました。

今後、山形県や森林組合のアドバイスのもとに、みなさんの気持ちが入められた一本一本を大事に育て、青々とした美しい防風林をぎっしりとよみがえらせます。

〔目標〕 2万本

〔協賛〕 1口1,000円(クロマツ1本相当)

事務所に現金でお届けいただくか又は郵便振替で払い込みください。

郵便振替(口座番号) 02250-4-133922

(口座名称) 防風林再生プロジェクト

〔用途〕 協賛金は苗木代・育成管理費・運搬費・事務費などプロジェクト経費全般に充てられます。





農業から震災復興を目指す

## 「東北コットンプロジェクト」

団体名/東北コットンプロジェクト事務局（株式会社クルック内） 事務所/東京都渋谷区神宮前2丁目18-21  
電話/03-5414-6273 Mail/tohokucotton@kurkku.jp URL/http://www.tohokucotton.com/



東北コットンプロジェクトは、東日本大震災被災地の農業生産組合・農業法人とアパレル関連企業等が共同で、「農業再生」「雇用創出」「新産業創出」を目的に被災農地にて綿（コットン）の生産を行うことで震災からの復興を目指すプロジェクト。

津波により塩害問題や灌漑施設の破損し、通常の稲作等が困難となった田んぼでも、耐塩性のある綿なら栽培できるかもしれない。そのアイデアをもとに、

地元でお米を作っていた農家とアパレル企業が協力してプロジェクトが立ち上がった。

このプロジェクトは被災地の農業生産者が綿を栽培し、アパレル関連企業が収穫された綿を買い取り、紡績・商品化・販売を行う。原料である綿の栽培から綿製品の販売までの一連の工程をプロジェクト参加各社が担い、「東北コットンプロジェクト」の統一ブランドで販売する。参加企業数は9月時点で20社を超える。

参加企業は、本業であるビジネスを通じて支援を行うことで、

継続的な活動を行うことができる。

これまでの活動は、2011年6月に宮城県仙台市荒浜地区と宮城県名取市の2カ所、合計1.6ヘクタールの畑で綿の種植えを行い、7月にプロジェクトとして正式に発足。農家と企業ボランティアが共同で草取りの作業などを進め、8月には初めての開花を記念し、「ワタの花見会」を開催。プロジェクトに参加する農家や企業、地元住民も集まり、100名を超える人が綿畑で花見を楽しんだ。

今後の活動は、10月末から11月中にかけて綿の収穫を行い、紡績等を経て2012年春頃に製品の発売を予定している。

初年度である2011年は試験栽培期間として位置づけており、収穫後の状況を見ながら、来年以降の活動内容を検討する。



東日本大震災により被災されました多くの皆様に心からお見舞いを申し上げます。

また、この大震災により犠牲になられました皆様のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

### 《東日本大震災後 EPO 東北の動き》

EPO東北ではスタッフの安全と地域生活の復旧を優先し3月21日（月）まで閉館いたしました。3月22日より業務を再開し、被災地の現状や支援情報の配信に取り組んでおります。業務再開にあたっては全国のEPOから励ましの言葉をいただき、情報の収集や配信においても協力をいただきました。

#### ◆「3.11あの時レポート」

多くの情報が交錯する中、被災地の現状を知るために全国の方がEPO東北のホームページを閲覧してくださっていることを励みに、未曾有の大震災と呼ばれる「3.11」の出来事を記録し伝えようと4月下旬から「3.11あの時レポート」の掲載を始めました。被災地支援のために活動する環境NPO、環境団体に所属する・環境活動に取り組む個人、環境活動に熱心な企業にヒアリングを行い、現場の生の声を掲載しています。このレポート掲載により、音信不通となっていた方の安否確認ができたという嬉しい報告も届きました。

今後も環境復興に向けて力強く歩む皆さんにヒアリングを行い、レポートを掲載していきます。

#### ◆ スタッフ現地レポート

現地に行ってお話しを聞かなければわからないことがたくさんあります。震災後、EPO東北スタッフはカメラを持って被災地へ赴き、いろいろな方のお話しを聞き、現場を見てきました。ホームページではスタッフが撮影した写真レポートを掲載しています。

また、首都圏の団体や他のEPOに招かれ、震災直後の様子や支援現場で起きた出来事、環境復興・再生に向けた動きなどをお話しする機会もいただいています。

#### ◆ 全国のEPOが発信している震災関連情報

EPO北海道 「ブラキストン線を越えよう！プロジェクト」

<http://www.epohok.jp/modules/blakiston/>

GEOC 「東日本大震災 関連情報」

<http://www.geoc.jp/shinsai-info/index.html#info2>

四国EPO 「四国と東日本大震災」

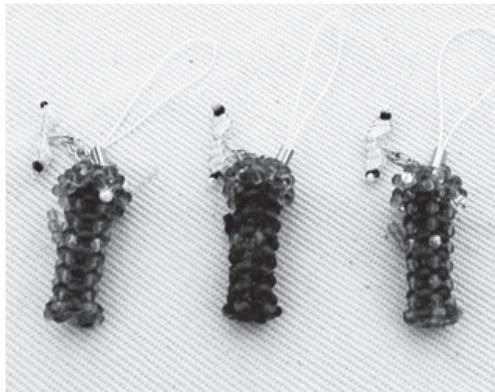
[http://4epo.jp/modules/shinsai\\_shien/](http://4epo.jp/modules/shinsai_shien/)



# 復興支援 recycle goods

被災地に縁のある素材を利用したり、リサイクルで作られた商品です。  
売上げの一部が寄付になります。

1



## 一本松に家族を増やそうプロジェクト

松りん（携帯電話ストラップ）

売り上げは、経費等を除き、陸前高田市・高田松原を守る会などに寄付され、高田松原と陸前高田市の復興に役立てられます。

販売価格は1個1,500円（送料込み）

販売元：一本松プロジェクト

<http://www.ipponmatsu-pro.com/>

2



## ジーパンをリメイクしたエコロジカルトートバッグ

いわきの復興を応援する「がんばっぺいわき」

ワッペン付きエコロジカルトートバッグ。

販売価格は1個1,500円（送料は着払いになります）

販売元：特定非営利活動法人ザ・ピープル

<http://www.iwaki-j.com/people/shop/index.htm>

3



## 味噌で日本を暖める「寒仕込み米みそ」

山口県にある「光浦醸造工業株式会社」様は被災地へ届けることが出来なかった味噌、「寒仕込み米みそ」をオンラインショップにて販売し、その売上げの全てを義援金とすることにしました。

通常価格682円/1kgのところ、525円/1kg（送料別）の特別価格とし、その売上げの全てが義援金として山口県防府市を通じ、日本赤十字社に寄付されます。

販売元：光浦醸造工業株式会社

<http://shop.asahimiso.com/?tid=10&mode=f4>

4



## 復興支援石けん

震災で、津波で、被害に遭った地区の素材を使い石けんにし全国の皆様に被災地や素材のこと、復興にはまだまだ時間がかかることを知って頂けることで少しでも被災地の力になればという思いで作られています。

売上金の20%が「あしなが育英会」に贈られます。

販売元：MOON ANGEL

<http://moon-angel.jp/>

※MOON ANGELの石けんは化粧品、医薬品、医薬部外品のいずれでもございません

## 環境 HERO エコレンジャー

5人のヒーロー達が、八戸市の環境を守っています

「環境HEROエコレンジャー」は、環境政策課の職員が、子ども達に人気のある戦隊ものをモチーフにしたコスチュームを身に纏い、地球温暖化対策やごみの減量・リサイクル等、広く環境啓発を行う集団です。現在、エコレンジャーは「エコ・レッド」、「エコ・ピンク」、「エコ・イエロー」、「エコ・ブルー」、「エコ・グリーン」の5人で構成されており、それぞれが持つ「得意技」によって、日々八戸市の環境を守っています。

エコレンジャーが誕生する前の環境



啓発は、当市の広報誌やホームページ等を通じての情報発信が主なものでしたが、その内容は文字が多い反面、イラストや写真が少ないといった一面的なもので、情報を受け取る市民の興味を欠くものでした。そこで、1人でも多く市民の関心を惹き、環境をより親しみやすく感じてもらう新たな啓発手法を模索した結果、エコレンジャーが誕生しました。

エコレンジャーは平成17年度から活動を開始し、地元ケーブルテレビとのタイアップによる環境啓発番組の製作や、エコレンジャーがイラストで登場する広報誌への連載、幼稚園や小学校の環境学習会等の各種イベントへの出勤等、主に子ども達への啓発を目的に活動を行ってきました。

今後も、エコレンジャーは多くの方々に愛されるキャラクターを目指し、

## 東北6県 青森 EPOトピックス

八戸市 環境政策課

- 〒031-8686 青森県八戸市内丸一丁目1-1
- TEL : 0178-43-9265
- FAX : 0178-47-0722
- HP : <http://www.city.hachinohe.aomori.jp/>
- E-mail : [kankyosei@city.hachinohe.aomori.jp](mailto:kankyosei@city.hachinohe.aomori.jp)

八戸市の環境を守るため出勤していきます。また新たな啓発手法についても模索していくことで、市民のニーズに合わせた環境情報の発信を行っていきます。



## 新たな地域づくりと 木質バイオマス普及のために

昨年7月に創立10周年を迎え、11年目の今年7月、これまでの経験に基づき、政策提言を発表しました。

「森林資源をエネルギーに」と2000年に設立して10年がたちました。この間、カーボンニュートラルな木質バイオマスの認知度は上がり、地球温暖化防止策として注目が集まりましたが、この震災を経験し、一気に期待が高まっているように思います。

木質バイオマスはまた、遠く海外から運ばれる化石燃料と違い、国内の地域内で産み出し、破碎したチップや固形化するペレット、薪として地域内で使われる“地産地消型”のエネルギーにすることもできます。東北ではエネルギーの約4分の1が暖房用に使われているというデータがあります。発電することに

意識は向きがちですが、実は暖房に薪やペレットを利用するだけでもエネルギー利用に大きな影響を与えます。

一方で、木質バイオマスの供給源である森林は荒れ、林業は疲弊しています。木質バイオマスは再生可能なエネルギーですが、いつまでも利用していくためには、森林をきちんと管理し、大切に使うという意識も必要です。

日本では「面倒で汚れる」というイメージが付きまといがちですが、実はスイスやスウェーデンでは、「心豊かでおしゃれな」利用をしています。これから迎

## 東北6県 岩手 EPOトピックス

岩手・木質バイオマス研究会

- 〒020-0861 岩手県盛岡市仙北1-14-20
- TEL : 019-635-8272
- FAX : 019-635-8272
- HP : <http://wbi.main.jp/>
- E-mail : [wbi@xg.main.jp](mailto:wbi@xg.main.jp)
- 寄稿 : 岩手・木質バイオマス研究会事務局

える東北の冬を、木質バイオマス利用をおこなうことで、生活の質を高めてみませんか？夜、家々から漏れるオレンジ色の灯りは、自然との共生をずっと願っていた宮澤賢二の世界に通じることでしょう。



## 名取ハマボウフウの会

大波に見舞われた閑上海岸で海浜植物たちは元気に芽を出した。



平成12年5月、名取市閑上海岸で絶滅危惧種のハマボウフウが数株発見され、地域内にある宮城県農業高校の圃場にそれを移植した。学校での試験栽培の成功を機に翌年8月、「名取ハマボウフウの会」を設立し会員20名でスタートを切った。



海岸の一面に立看板をたて、防護柵を巡らせた保護区をつくって、本格的なハマボウフウの増殖に乗り出すとともに、同じ目的を持つ全国の市民団体と連携して年1回の交流会を実施してきた。一方、名取市北釜地区に借用した栽培畑では、季節の食べ物として地域の人々に親しまれてきたハマボウフウの生産販売にも着手し、環境と経済の両立を目指す新たな仕組みづくりにもチャレンジしてきた。以来10年、“海岸のお花畑づくり”と銘打った海岸でのハマボウフウの保護育成活動は着実に成果を上げ、毎年恒例の行事となった移植会や種まき会には多くの市民が参加している。一方、“潮風のおくりもの”を謳い文句とする栽培畑での新しい食材づくりも、それを調理し提供してくれる地域内の料理店が広がりを見せ、ハマ

## 東北6県 宮城 EPOトピックス

### 名取ハマボウフウの会

- 〒981-1232 名取市大手町4-18-2 A-103
- TEL: 090-7066-6014
- E-mail: n-ohashi@swan.ocn.ne.jp
- 寄稿: 大橋 信彦 氏

ボウフウの持つ新たな可能性を感じさせてくれる。今年6月、名取市で「第2回ふるさと海辺フォーラム」が開催された。2日間に亘る催しは、ネットワークを結ぶ全国12団体の参加協力を得て、災害を乗り越える復興記念イベントとしての役割りを立派に果たしてくれた。失われたものは確かに小さくはないが、その中から得られたものを力に、わたしたちはこれからも海岸での活動を継続していこうと考えている。



## 菜の花から始まる 循環型社会づくりを目指して

環境保全と農業・農村の活性化を同時に実現。菜の花には大きな可能性が秘められています！



当組織は「菜の花から秋田の農業と農村を元気にしよう！」をスローガンに2005年11月に設立しました(2008年3月にNPO法人化)。農業者、自治体、建設会社、運送会社、産廃業者、大学教員等多彩なメンバーから構成されており(2011年9月現在、会員数は約90名)、菜の花から始まる循環型社会づくりを目指して活動を展開しています。

取組成果としては、①菜の花栽培面積の拡大(県内栽培面積400haは全国トップレベル)、②搾油体制の整備と製品の商品化(4つの搾油施設が稼働、県産ナタネ油の商品化、加工品開発、料理教室開催、学校給食への導入)、③廃食用油回収エリアの拡大(県内25市町村の大部分で実施)、④BDF製造・利用の普及(16カ所で製造)、⑤啓蒙活動の実施(菜種栽培講習会や菜の花フェスティバルを開催)⑥耕作放棄地・遊休地の再生、等が挙げられます。

今後は取組のレベルをより向上させるために、以下の点に取り組みます。第1に、畑作物である菜の花の連作障害を回避し、農地を持続的に活用していくために、

## 東北6県 秋田 EPOトピックス

### NPO法人あきた菜の花ネットワーク

- 〒010-1601 秋田市向浜1丁目3-10
- TEL: 018-862-6686 ●FAX: 018-862-4593
- HP: <http://www.akita-nanohana.com/>
- E-mail: tetsu1187pure@yahoo.co.jp
- 寄稿: 渡部 岳陽 氏

菜の花以外の作物との輪作に挑戦します。第2に、栽培、搾油、油販売、BDF製造、各プロセスの経済性の向上です。栽培面では、単収向上と経済的支援の組み合わせ、搾油面では搾油用ナタネの確保、油販売面では他類似商品との差別化戦略構築、BDF製造面では安価な廃食用油の確保、を目指します。





## 山形の宝「芋煮」をつたえる 市民参加型のイベントへ

マイ箸、マイカップ運動の推進で「日本一の芋煮会フェスティバル」



今年で23回目を数えた日本一の芋煮会フェスティバルは、山形の活性化とPRを目的に平成元年よりスタートしました。直径6メートルの大鍋を使って3万食分の材料でつくる芋煮は味もスケールもまさに日本で、山形の秋の風物詩である芋煮会シーズンの幕開けとして、毎年大勢のお客様が県内外から来場されて美味しい芋煮に舌づつ

みを打っています。

フェスティバル当日は整理券を受け取った後、リユースカップに盛り付けられた大鍋の芋煮を口いっぱい頬張る姿が会場の至るところで見られました。またマイ箸をご持参いただいた方も多く、お客様のエコに対する意識の高さがうかがえました。

今回のテーマ「つながろう！ つたえて行こう！ 山形の宝」は、山形の食文化である芋煮を次世代に伝え、また芋煮会を通じていろんな方々と繋がって行くことの大切さを唱えました。そして山形の宝である芋煮をフェスティバルに置き換えたとき、多くの市民が参加するイベントへ



## 東北6県 山形 EPOトピックス

日本一の芋煮会フェスティバル実行委員会事務局

〒990-8501 山形県山形市七日町3-1-9  
(山形商工会議所内)

●TEL: 023-622-0141  
●FAX: 023-622-0146  
●HP: <http://www.y-yeg.jp/imoni/>  
●E-mail: [imoniman@clock.ocn.ne.jp](mailto:imoniman@clock.ocn.ne.jp)

の脱皮を目指し、準備段階から多くのボランティアの皆さんにご協力いただいたことが、何よりの成果と捉えています。今後フェスティバルが回数を重ねることにさまざまな形で市民が参加し、無くてはならない誇るべきイベントとなることを期待しています。

## いわき海岸環境復元プロジェクト

一刻も早く人々が憩える海岸環境を取り戻そう!!



私どもの会は、昭和63年に発足した市民団体で、「いわき地域の環境の保全に関して情報交換すると共に環境の質の向上に貢献する」ことを目的に幅広く活動しております。

本会では、従来からいわき市永崎海岸を中心に「海辺の自然観察会」を実施してきました。年々、磯焼け現象やゴミの散乱、流入河川による水質悪化等、海岸部の自然環境の悪化が進んでいる

ことに強い危機感を感じ、海岸環境の復元を目標に実態調査を始めました。平成20、21年度は、永崎海岸を対象に、砂浜の汚れ、流入河川の水質調査、流域内の排水処理施設の実態調査等を実施してまいりました。平成22年度は、永崎海岸だけでなくいわき地区海岸全体の海岸環境の保全を目標とした調査活動を予定していましたが、3月11日の大震災とそれに伴う津波被害、原発事故等で大きな影響を受け、現在は、海岸部における放射線濃度の測定（時間的な推移を見るための定点観測、地域的な拡がりを見るための調査等）や海岸沿いに植林された松林等による津波抑制効果等の現地調査を実施しています。

今後は、一刻も早く人々が憩える海岸環境を取り戻すべく放射能汚染に関する調査を継続すると共に、「未来を担

## 東北6県 福島 EPOトピックス

いわき地域環境科学会事務局

〒970-8034 福島県いわき市平上荒川字長尾30  
福島工業高等専門学校内  
●TEL: 0246-46-0836 ●FAX: 0246-46-0843  
●HP: <http://www.essid.org/>  
●E-mail: [mail@essid.org](mailto:mail@essid.org)  
●寄稿: 橋本 孝一 氏

う子供たちの笑顔が輝く白砂青松のいわきの海岸」を目指して、汚れの原因・実態調査を進めると共に、他の環境団体との協働の輪を広げながら自然観察会等を企画していこうと思っております。



## \*EPO 東北オフィス利用案内

### ◆各種パンフレットの設置・閲覧・配布

環境にまつわるパンフレットやイベントチラシを設置しています。  
EPO 東北オフィスで自由に閲覧していただける他、部数のある冊子については希望者に配布しています。環境学習や講座にご利用ください。

### ◆ミーティングルーム貸し出し

環境活動、震災復興支援に関する活動に無料で貸し出しいたします。  
利用希望者は事前にEPO 東北事務局までお申し込みください。  
土日の利用、18時以降の利用をご希望の方は事務局までご相談ください。可能な限り対応いたします。

### ミーティングルーム貸し出し

**開館日**  
無 料 月曜日…金曜日

**開館時間**  
10:00…18:00

・環境活動、震災復興支援に関するミーティングや催事にご利用ください。  
・利用人数：30名まで

## \*Web-Siteのご案内

- ・東北6県のイベント情報
- ・環境助成金情報
- ・EPO 東北の動き
- ・エコの日一覧

などの情報を掲載しています。

### 《大震災に関連した情報》

- ・3.11あの時レポート  
環境NPOや環境活動に熱心な企業、個人の「生の声」を掲載しています。
- ・EPO 東北スタッフによる現地レポート
- ・震災支援、復興支援に関する情報

### メールマガジン登録者募集中!!

発行：毎月上旬 登録：無料

- ・EPO 東北オフィス情報
- ・環境助成金情報
- ・環境イベント情報

などを配信しています。

## \*EPO 東北のパートナーシップ団体

EPO 東北は各県で環境活動を進める団体の協力を得て運営しています。

青森県環境パートナーシップセンター	<a href="http://www.eco-aomori.jp/">http://www.eco-aomori.jp/</a>
環境パートナーシップいわて	<a href="http://www.iwate-eco.jp/">http://www.iwate-eco.jp/</a>
環境あきた県民フォーラム	<a href="http://www.eco-akita.org/index.html">http://www.eco-akita.org/index.html</a>
環境ネットやまがた	<a href="http://eny.jp/">http://eny.jp/</a>
超学際的研究機構	<a href="http://www.chogakusai.ecnet.jp/">http://www.chogakusai.ecnet.jp/</a>
せんだい・みやぎNPOセンター	<a href="http://www.minmin.org/">http://www.minmin.org/</a>
環境会議所東北	<a href="http://kk-tohoku.or.jp/">http://kk-tohoku.or.jp/</a>
仙台広域圏ESD・RCE	<a href="http://rce.miyakyo-u.ac.jp/">http://rce.miyakyo-u.ac.jp/</a>

EPO 東北は東北地方環境事務所(環境省)と財団法人みやぎ・環境とくらし・ネットワーク(MELON)が協働して運営しています。



# EPO TOHOKU

東北環境パートナーシップオフィス  
Environmental Partnership Office TOHOKU

〒980-0014 宮城県仙台市青葉区本町2丁目5-1 オークビル5F  
TEL : 022-290-7179 FAX : 022-290-7181  
E-mai: info@epo-tohoku.jp URL: http://www.epo-tohoku.jp

勤務時間：月曜日～金曜日【9：30～18：00】  
休 日：土曜・日曜・祝日・お盆・年末年始



リサイクル適性(A)

この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。